

平成30年度 地域連携活動報告書

協定締結日	平成31年1月31日	連携先名称	福島県 双葉郡浪江町
活動状況	継続中	連携先窓口	浪江町役場 農業課（大浦龍爾）
活動資金	補助金	担当教員(所属)	山本祐司（総研）、黒瀧秀久（生物産業学部）
活動体制（単位）		関連教員(所属)	高畑健（農学部）、入江彰昭（地域環境科学部）、井形雅代（国際食料情報学部）、菅原優・小川繁幸（生物産業学部）
活動内容	<p>大学等の復興知を活用した福島イノベーション・コースト構想促進事業「福島浪江町における農業“新興”に向けた取り組み～担い手育成に向けて～」では、東京農業大学と(株)舞台ファームとの連携のもと、本学が有する産学官連携のネットワークを最大限に活用したコンソーシアムを形成し、浪江町の農業“新興”のコンセプトのもとで新規就農、六次産業化推進を含めた取り組みを大学の“復興知”を活かして実施する。初年度の活動は、以下のとおりである。</p> <p>①浪江町酒田地区の圃場で本学学生と地元農業者と稲刈り体験を開催（2018年10月6日） 浪江町での農業の営農再開・復興を目的として、稲刈りとワークショップを行い、農業者との意見交換から今後の課題を共有した。 参加人数：計11名（本学教員4名、本学学生7名）</p> <p>②福島県沿岸部での営農再開に向けた講義を開催（2018年11月6日・19日・27日） 東京農大3キャンパスの学生に浪江町をはじめとする営農再開の取り組みを認識することを目的に実施した。 参加人数：本学学生190名参加</p> <p>③シンポジウム「福島県浪江町における農業“新興”に向けた取り組み～担い手育成に向けて～」を開催（2019年1月11日） 浪江町の農業の“新興”に向けた課題と今後の取り組みに向けた情報発信を目的に実施した。 参加人数 計69名（本学教員7名、本学学生24名、主催者関係者7名、一般参加者31名）参加</p> <p>④浪江町で実地調査「福島沿岸部農業復興の現状と課題」を開催（2019年1月13日） 本学学生が浪江町に訪問し、営農再開の現場を見学し、地元農業者（6名）との意見交換を実施することで現状把握と新たな取り組み提案を行った。 参加人数 計53名（本学教員等7名、本学学生46名）</p> <p>⑤浪江町と東京農業大学との連携協定締結（2019年1月31日） 福島県浪江町の農業の早期復旧および復興・新興、また農業の担い手育成のために、新たなモデルとイノベーションを創造し農業を地域の成長産業へ推進すべく相互に連携・協力しながら協働事業に取り組む。</p>		
活動成果	<p>第1に、浪江町での稲刈り体験や現地視察、ワークショップの実施による営農再開に向けた課題の把握である。本学学生が延べ54名、浪江町での稲刈り体験、現地視察、ワークショップへの参加を通じて、地元の農業者との交流・対話を行い、農業の営農再開・復興に向けた課題の共有と新たな“新興”策について提案を行うことができた。稲作農業の現場での体験と意見交換、新規参入就農した農業者の圃場（花卉ハウス）見学と意見交換を実施し、営農再開に必要な技術的課題を共有することができた。</p> <p>さらには、東京都内において、シンポジウム「福島県浪江町における農業“新興”に向けた取り組み～担い手育成に向けて～」を開催し、浪江町復興有識者会議委員を務めた関満博氏（一橋大学名誉教授）による基調講演「浪江のまちづくりと産業復興」、パネルディスカッションとして、黒瀧秀久（東京農業大学教授）の座長のもとで、佐藤良樹氏（浪江町副町長）、大浦龍爾氏（浪江町農林水産課長補佐）、渋谷往男（東京農業大学教授）、伊藤啓一氏（(株)舞台ファーム常務取締役）、菅原優（東京農業大学准教授）による報告を行い、新たな産業としての農業“新興”に向けて何をすべきなのか、福島県沿岸部支援に携わる有識者を交えて議論を深め、かつ情報発信を行うことができた。</p> <p>第2に、舞台ファームとの連携により浪江町の営農再開、新規就農、六次産業化に関するアクションプランの方向性を見いだすことができた。舞台ファームにおいては、本学3キャンパスにおける計3回にわたる講義や「浪江町に在籍する農業者の経営実態調査報告書」の作成を通じて、浪江町の営農再開に向けた人材面、インフラ整備、販路面での課題を把握し、今後の農業“新興”に向けたアクションプランの方向性を見いだすことができた。具体的には、営農再開に向けた①農地保全・農地の集約化、②農業施設整備、③実証栽培・担い手の育成に関連した調査業務を委託し、そのなかから稲作、花卉類、野菜類、畜産といった経営部門別の現状と課題を明らかにしている。</p> <p>将来的には既存の農家の営農再開の意思を尊重しつつ、継続可能な農家・農業生産法人が継続できない農家の農地を引き継ぐという「リレー方式」を提起することによって、地域農業の担い手の再生を図るという方向性を共有し、ビジネスとしての六次産業化の可能性についても検討することができた。</p>		
課題・改善点	<p>第1に浪江町における営農再開に向けて、避難先からの営農や担い手不足・人材育成、圃場・水系整備などのインフラ整備、米の集荷・検査設備などの販売に向けた体制などの構築が遅れているなかで、担い手育成・新規就農に向けた受け皿体制の整備が課題である。</p> <p>第2に本事業のなかで東京農大の学生や新規就農を希望する社会人の現地でのスムーズな活動の受け入れ体制や研修システムの整理が相互に必要となってくる。</p> <p>第3に本事業において、浪江町で実行委員会を開催したり、事業に関連したイベントの開催によって、浪江町の農家や生活者との間に相互信頼関係を築いていくことが重要であると考えている。</p>		

「事業名：福島浪江町における農業“新興”に向けた取り組み～担い手育成に向けて～」 平成30年度補助事業の実績・成果

東京農業大学 連携市町村：双葉郡浪江町

連携市町村との協定締結日：平成31年1月31日 現地拠点：双葉郡浪江町役場本庁舎(3階農林水産課内)

事業のポイント

東京農業大学と㈱舞台ファームとの連携のもと、本学が有する産学官連携のネットワークを最大限に活用したコンソーシアムを形成し、浪江町の農業“新興”のコンセプトのもとで新規就農、六次産業化推進を含めた取り組みを大学の“復興知”を活かして実施する。

今年度の活動実績

①浪江町酒田地区の圃場で地元農業者と稲刈り体験を実施（平成30年10月6日）

浪江町での農業の営農再開・復興を目的として、東京農大3キャンパスの教員と学生が稲刈りとワークショップを行い、農業者との意見交換から今後の課題を共有した。

②福島県沿岸部での営農再開に向けた講義を実施（平成30年11月6日・19日・27日）

東京農大3キャンパスの学生に対して、㈱舞台ファームとの連携により、浪江町における営農再開に向けた取り組みを認識する目的で講義を実施した。

③シンポジウム「浪江町における農業“新興”に向けた取り組み～担い手育成に向けて～」を実施（平成31年1月11日）

東京農大3キャンパスの教員と学生が浪江町の農業“新興”に向けた課題と今後の取り組みに向けた情報発信を目的として、東京都内でシンポジウムを実施した。

④浪江町で実地調査「福島沿岸部農業復興の現状と課題」を実施（平成31年1月13日）

東京農大3キャンパスの教員と学生が浪江町に訪問し、営農再開の現場を見学し、地元農業者とのワークショップを実施することで、浪江町の農業の現状把握と新たな取り組み提案を行った。



今年度の成果

①浪江町での稲刈り体験や現地視察、ワークショップの実施による営農再開に向けた課題の把握

本学学生が延べ54名、浪江町での稲刈り体験、現地視察調査、ワークショップへの参加を通じて、地元の農業者との交流・対話を行い、農業の営農再開・復興に向けた課題の共有と新たな“新興”策について提案を行った。

②舞台ファームとの連携により浪江町の営農再開、新規就農、六次産業化に関するアクションプラン

本学での講義や「浪江町に在籍する農業者の経営実態調査報告書」の作成を通じて、人材面、インフラ整備、販路面での課題を把握し、今後の農業“新興”に向けたアクションプランの方向性を見いだすことができた。